

第 1 回検討委員会における御意見のまとめ

令和 2 年 2 月 27 日に実施した、第 1 回検討委員会で御発言があった内容について、事務局にて対応案の作成に当たり整理をするため、同じ話題と思われるものをテーマごとにまとめました。

なお、前回御欠席者の御意見も、後日聞取りした内容を同様にまとめております。

※ 参考資料として、第 1 回検討委員会の議事録を添付しておりますので、併せてご覧ください。

○議事録 P3～6

- ①本来は、生態系サービスとは関係なく、生物多様性の大切さを純粋に感じてもらうことが大切であり、そのためには体験が重要となる。
- ②体験以外で、県民の方々に分かりやすく説明するためには生態系サービスの話も必要である。
- ③特に、農林業や商工業、水産業も巻き込むためには、生態系サービスによるメリットの話は大切。
- ④但し、生態系サービスによる説明だけでは本当の意味での理解に至らない為、最終的には純粋に生物多様性の大切さを理解してもらうことを目標とすべきである。
- ⑤生物の多様性そのものの価値の説明と生態系サービスを用いた説明の両方が必要。

⇒【テーマ 1】『「生物多様性」の考え方、説明について』として県の対応案を検討、**資料 2**の P1～2

○議事録 P6～11

- ⑥県の既存の取組みは間接的に生物多様性に役立つものが多いが、直接的に生物多様性保全に役立つものを特に重視して打ち出してはどうか。具体的に数値目標が示すことができれば理解しやすい。
- ⑦直接的な数値としては希少種等がイメージし易いが、目標設定や調査が難しい。
- ⑧モニタリング調査に関して、種を絞れば数値目標を掲げることにもできると考える。
(淡水魚類であれば、ミヤコタナゴやホトケドジョウ等) ※欠席者御意見のため議事録には記載なし。
- ⑨環境科学センターでも様々な取組みをしており、最近では環境 DNA を用いた生物モニタリング手法の開発などを進めている。※欠席者御意見のため議事録には記載なし。
- ⑩環境分野の予算がとりにくいので、県の研究機関で実施している事業を発信してほしい。予算を確保していく中で、内部に対して希少種、普通種、外来種の中で、希少種と外来種を頭出しすると緊急性もあり説明しやすいのではないかと。※欠席者御意見のため議事録には記載なし。
- ⑪ 6 つのエリアに分けて取り組んでいるが、県として最終的にどのような状態にしたいか分かりにくい。
- ⑫県全体をどのようなバランスで保全するか検討し、全体の目標を各エリアに伝えることが大切である。
- ⑬丹沢エリアでは目標設定から官民協働で丹沢大山自然再生計画に取り組んでおり、うまく機能している。他のエリアもそのような形で取り組めると良いと思う。
- ⑭都市、近郊とそれ以外では生物多様性の問題が異なり、取組みの優先順位や目標も異なるはずである。
- ⑮ターゲットをはっきりさせて目標設定すべきである。誰にどのように見せるかで議論も異なってくる。
- ⑯ 6 つのエリアについて、各エリア広いので、エリア内で代表的な場所を主観において地域の特徴をとらえてはいかかがか。※欠席者御意見のため議事録には記載なし。

⇒【テーマ 2】『計画の進捗を測る指標と目標設定について』として県の対応案を検討、**資料 2**の P3～5

○議事録 P7～11

- ⑰県は科学的知見の蓄積について、複数の試験研究機関で取り組んでいるとのことであるが、情報を整理して公開するようなシステムが無い。
- ⑱県内には上記のほか、研究者も多く、県民活動も活発である一方、連携ができていない。生物生息情報を収集し統率して保全施策を考えるセクションが必要である。
- ⑲千葉県では自然保護課内に生物多様性センターを置いているが、箱物では無く部署として情報が集まるシステムである。そのようなものがあれば情報発信もスムーズにできると考える。
- ⑳千葉県の生物多様性センターには、その分野に専門的な職員が2名いるが、そのような専門性の高い職員が配置されていることは大きい。※欠席者御意見のため議事録には記載なし。
- ㉑一方、生物多様性センターを設置するために、人や予算が必要であり大変な部分も多い。
- ㉒市町村との連携について、現状年に1回連絡会議を実施されているが、随時連絡が取れるシステムが必要と考える。生物の移動に行政区は関係がないため、市町村をまたがるような案件については、県が支持や支援ができるような体制を整えておくべきと考える。

⇒【テーマ3】『生物多様性情報ネットワークの構築について』として県の対応案を検討、**資料2**のP6

○議事録 P5、10、14

- ㉓環境教育イベントでは、知的好奇心が満たされるというところが、子どもでも大人でもお年寄りでも原点。各々が感じて自発的に行動することが大切であり、生物多様性が役に立つというのはその後の話。
- ㉔都市域の緑地確保の問題と、農村域の鳥獣コントロールの問題が分断されて存在している。このバランスを考える上から目線が必要である。
- ㉕ネットワークシステムとは反対に、現場の人員も充実させるべきと考える。県立公園等を拠点に各エリアで専門性の高い職員が配置できるのが理想的である。
- ㉖SDGs が世間に浸透してきている今、SDGs の目標から新たに取組みを検討することも戦略的に良いと思う。
- ㉗SDGs の17の目標は同列に羅列する話ではなく、ウエディングケーキモデルで考えるべきである。生物多様性に関わる目標は、他の多くの目標の基盤となっている。

⇒【テーマ4】『その他』として県の対応案を検討、**資料2**のP7